

Title	末尾第2音節に強勢のある語のstød
Author(s)	間瀬, 英夫
Citation	IDUN - 北欧研究 -. 23 p.131-p.146
Issue Date	2019-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71777
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

末尾第 2 音節に強勢のある語の *stød*

間瀬 英夫

1.1. 序：末尾第 2 音節に強勢のある語の *stød*

デンマーク語の *stød* は強勢（＝第 1 または、第 2 強勢）のある音節中の *stød* 基のある音、すなわち長母音および短母音後の自鳴子音 [ð, j(ɨ), w, ɹ, l, m, n, ŋ]（音声記号は DnMs（本稿末「音声記号対応表」、間瀬（2005）参照））に起こり得る。短母音および阻害音（＝非自鳴音）には *stød* は起こらない。*Stød* は原則として、屈折形、派生形や合成・複合形ではない（共時的）単形態語の場合、語中の末尾第 1 音節または末尾第 3 音節に第 1 強勢がある語の強勢のある音節に生起するとされる。ただし、単音節形の場合、長母音には *stød* が生起するが（例外あり；Heger（1980）の調査によれば、97%が *stød* をもつ（Heger: 85））、短母音後の 1 個の自鳴子音に終わる語には *stød* が生起しない語も多々あるが、自鳴子音の後にさらに子音が続く語では自鳴子音に *stød* が生起するのが普通である（以下の表 1 参照）。第 1 強勢が末尾第 2 音節にある語には一般に *stød* は生起しないと言われる。末尾第 2 音節に強勢のある語の *stød* に関して、Grønnum（2005; 2007）は表 1 に示す図表を提示し、以下のように説明している。

表 1 末尾第 2 音節強勢語彙
Grønnum (2005: 222; 2007: 70) (IPA 表記)

末尾第 1 音節強勢語彙 Oxytone leksemer				
I	II	III	IV	V
- \check{V} C[-voi]C ₀ 短母音 + 音声的 無声子音 [k ^h aɕ] <i>kat</i>	- \check{V} 開音節中の短母 音 [ja] <i>ja</i>	- \check{V} [+voi] 短母音 + 1 個の 自鳴音子音 [t ^s al] <i>tal</i> または [hal ^ʔ] <i>hal</i>	- \check{V} C[+voi]C ₁ ⁿ 短母音+ 1 個の自 鳴音子音または 1 個または複数 個の後続子音 [hal ^ʔ s] <i>hals</i>	-V:C ₀ 長母音、後続子 音なし、または あり [se: ^ʔ] <i>se</i> [vi:s ^ʔ] <i>vis</i>
軽い音節	軽い音節だが、 一部の屈折形で 長母音と <i>stød</i> を 獲得	<i>stød</i> は予測で き ない	<i>stød</i> あり ; 例外 : /r/ + /{p t k f s}/	常に <i>stød</i>

末尾第2音節強勢語彙 Paroxytone leksemer		
末尾音節にシュワー		末尾音節に完全母音
VI	VII	VIII
-VC ₀ ə 末尾音節＝開音節 [ˈhu:lə] <i>hule</i> (sb) [ˈɛŋɡə] <i>enke</i>	-VC ₀ əC _[+son] 末尾音節＝自鳴子音に終わる閉音節 [ˈɔ:ɸm] <i>åben</i> [ˈvɔ:ɸm] <i>våben</i> [ˈɡam] <i>gammel</i> [ˈvam [?]] <i>vammel</i>	-VC ₀ V _[fuld] C ₀ 末尾音節＝開音節または閉音節 [ˈnæ:ɸo] <i>nabo</i> [ˈvi:səm] <i>visum</i> [ˈtsaŋɡo] <i>tango</i> [ˈp ^h ensəm] <i>pensum</i>
stød なし 少数の例外あり	stød は予測できない	stød なし

(V = 母音, C = 子音, ə = /ə/ [ə], [+son] = sonorant 自鳴音, [fuld] = fuldvokal 完全母音)

末尾第2音節に強勢のある語が一般に stød をもたないということは周知のことであり (cf. Andersen (1954); Hansen (1943, 1956); Heger (1980)), 最近でも Grønnum & Basbøll (2009: 28) でも同様に述べられている。(Andersen は末尾第1音節および第2音節に強強勢のある語を各々「 α -語」, 「 β -語」と名付けている。) ただし, 末尾第2音節に強勢のある語が一般に stød をもたないということは派生語や合成語あるいは屈折形といった複形態語・複形態形ではない語形に関してのことであるが, それでも現実には事はそう単純ではない。以下, 末尾第2音節に強勢があり, 共時的に単形態語とみなすことのできる語の stød について見ていく。以下では, 末尾第2音節に強勢がある語を「 β 語」と呼ぶこともある。(なお, 紙数の都合で語彙の日本語訳は省略する。)

1.2. Grønnum のグループ VI の語

Grønnum によれば (表1参照; 以下, Grønnum の記述に関する音韻・音声表記は Grønnum の IPA 表記のまま), グループ VI の /ə/ に終わる語彙は原則として stød をもたない。例外は [ˈp:ɖkɐ eˈtæ:ɸə] *ordre, etage* (ただし *etage* の stød は義務的ではない)。

このほか, [jə] (または [ɸə]) に終わる語で stød をもつ語が 60 個ほど (godt 60 ord) ある, たとえば *specie, medie, studie, familie, konkylie, arie, ferie, serie, glorie, historie, furie, asie* など。しかし, これらの語は基底では3音節語, すなわち /jə/ に終わる語で, /jə/ に終わるものではないと主張することができる (2005: 226; cf. 2007: 73)。これに対して, 約 60 個の stød なしの語 (cirka 60 stødløse ord) がある, たとえば *smedje, balje, vanilje, pulje, linje*。これらは /jə/ に終わるとすべきであ

ろう。/iə/ の語は、原則として、/ə/ の前の /i/ が非音節化されて、[j] で実現されるという規則が与えられよう (2005: 226)。

このほか、**-ig, -ing** の母音はシュワーで、完全母音ではないと考えることが可能である。たとえば **stadig, mulig, honning, killing** ['sɔ̃dæ:ði 'mu:li 'hʌnɐŋ 'kʰilɐŋ] など 118 語は stød なし。例外は **arrig, skilling** ['ɑ:ʔi 'sɔ̃ɐlʔɐŋ]。

/ə/+無声子音で終わる語は少数であるが、大部分は規則に従って stød なし：**sennep, birkes, Agnes etc.**['senɐp 'bʲɪg̊əs 'ɑwnəs]。例外：**fælles** ['fɛlʔəs]。

/əd/ に終わる少数の語は全て規則に従って stød なし：たとえば ['ma:ɔ̃g̊ɔ̃ 'fɛlɔ̃ 'mo:nɔ̃ 'læɔ̃ɔ̃ 'ho:ɔ̃] **marked, fælled, måned, lærred, hoved**。なお、[ɔ̃] は接近音で [+sonorant] の音であるが、Grønnum は [ɔ̃] を /d/、すなわち閉鎖音音素 ([-sonorant] の音素) の実現形とみなしているため、「規則に従って stød なし」とするようであるが、筆者は [ɔ̃] に終わる語はグループ VII に属すものとみなす。

/ə/+子音結合の語は約 30 語で stød をもつ：**alskens, kapers, slambert, skonnert** ['alʔsɔ̃ŋs 'kʰæ:ʔbɐs 'sɔ̃amʔbɔ̃ɔ̃ 'sɔ̃ʌnʔvɔ̃ɔ̃]；例外 (stød なし) は **hulens** (adj), (**delirium**) **tremens** ['hu:lɪns 'tʰɛg̊æ:mɪns] (eller ['tʰɛg̊:mɛnʔs])。 (2005: 226)

以上が Grønnum (2005; 2007) のグループ VI に関する記述である。

1.3. Grønnum のグループ VII の語

Grønnum によれば、グループ VII の /əl ən ər/ に終わる語の stød 生起はかなり不規則・変則的である。/ʔstɛŋgəl ʔkamər ʔvɔ:bən/ ['sɔ̃ɐŋʔ 'kʰamʔvɔ:bəm] **stængel, kammer, våben** などの語構造に stød が生起し、/ɛŋgəl hamər ɔ:bən/ ['ɛŋ] 'hamɐ 'ɔ:bəm] **engel, hammer, åben** などの語構造に stød が生起しないことを共時的に説明するすべはない。 (2005: 226)

国籍などを表す語彙を除いた /əl ən ər/ に終わる語が 644 語ある。これらの語彙は母語話者がとくに派生語とは思わないものである。このうち、94 語は強勢音節の前に弱強勢音節 (prætonisk(e) stavelse(r)) をもつ、たとえば **salamander, ranunkel, beleven, tuberkel**。また英語からの少数の新借用語があるが、これらは使用頻度が高く、普及している、たとえば **computer, speeder**。

これら 644 語のうち、395 語は stød をもち、249 語は stød をもたない。とくに、/əl/ に終わる 173 語では 86% が stød をもつ。たとえば **regel, ankel, mandel, svimmel, simpel, pensel**。/-səl/ に終わる 35 語はすべて stød をもつ、たとえば **skændsel, pensel, blusel, bidsel, gidsel, gnidsel, tidsel, bindsel, vindsel, bændsel, brændsel, brøndsel, færdsel, rædsel, ødsel, fødsel etc.**。しかし、たとえば **vabel, cirkel, engel, gammel, djævel** は stød なしである。

/ər/ に終わる 338 語の 63% は stød をもつ、たとえば **feber, sladder, ilder, kamfer,**

mager, snedker, kammer, panser, vinter, yver. 一方、たとえば *peber, stodder, kælder, tiger, sommer, sjover* は *stød* をもたない。

これに対し、/ən/ に終わる 134 語では大多数 (74%) が *stød* をもたない、たとえば *lodden, figen, fanden, lunken, alen, kommen, sulten, gnaven*. しかし、*hyben, orden, lagen, pollen, asen* などは *stød* をもつ。

しかしこの分布は完全に固定したものではない、個人によって *stød* の使用が異なることがあるが、多数の話者において *stød* をとる語が増加する傾向にある。たとえば *hammel, gnier, kørvel, nadver* などは若年層では *stød* つきが一般的になってきている。同じ傾向が /t/ + /{p t k f s}/ の語、たとえば *forvorpen, spartel, snorkel, barsel, kørsel, færdsel, varsel* にも当てはまる。(2005: 227)

末尾第2音節に強強勢をもつ語は全般に *stød* なしであるので、グループ VII の *stød* をもつ 395 語は語彙 *leksikon* のなかで有標化されなくてはならない。

別の解釈可能性として、これらの *stød* つきの語の音節数を異なる数え方で行うことである。もし *stød* つきの語を1音節形と論証することができるなら、これらの語の *stød* は規則的であろう、なぜならこれらの語はグループ IV または V に属することになるからである。たとえば *æsel, vammel, orden, våben, mønster, kammer* のような語は /əC/ の屈折語尾を付加した *æsl-er, vaml-er, ordn-er, våbn-et, mønstr-et, kam-re* は2音節形であり、このことは語幹 (= 基本形) が基底では1音節であることを示唆しうる。これらの語資料をもう少し詳しく見てみると、/ə/ に終わる *stød* つきの 174 語全ては、この判断基準によれば、基底では1音節形とみなすことができる、屈折がある語の限りは (多くの語では屈折がない、たとえば *sammen*) 。

/ər/ に終わる *stød* つきの 211 語は /ə/ の語のようには一義的に範疇化できない。約3分の1の語は屈折語尾 /əC/ を伴う形では3音節形であり、それゆえ基底で2音節形であるとみなさなくてはならない、たとえば *pamper, tølper, røjser, pilsner*. その代わりに、これらの語は全ての形 (= 基本形, 屈折形) で *stød* つきとして語彙化できる。残りの3分の2の語は、多くは屈折のない語 (たとえば *hinder, reverenter, hulter, butler, sønder*) であるが、これらも基底では1音節とみなすことができる。(2005: 227) 以上が Grønnum の記述である。

なお、§1.2 で示したように、[-əð] に終わる語は Grønnum はグループ VI に属するとするが、筆者は [ð] に終わる語はグループ VII に属するものとみなす。

1.4. グループ VIII の語

Grønnum のグループ VIII の弱強勢音節中に完全母音をもつ2音節語は原則通り *stød* なし。たとえば

nabo, vindue, Egon, salsa, manko, pensum, pondus ['næ:bo 'venðu 'e:ɡʌn 'salsa 'manʰkʰo 'pʰensəm 'pʰʌŋdus]. 例外: 暦月の **juni, juli** ['ju:ʔni 'ju:ʔli], **arrig, skilling** ['a:ʔi 'sɡelʔen]. (2005: 227, 228)

2.1. -ie の語

Grønnum は、上述のように (§1.2 参照)、たとえば **specie, medie, studie, familie, konkylie, arie, ferie, serie, glorie, historie, furie, asie** などの語は基底では 3 音節語、すなわち /iə/ に終わる語で、/jə/ に終わるものではないと主張することができるという。Grønnum の考えでは、「基底」3 音節語 (= 末尾第 3 音節に強勢のある語) <-ie> (<> 内は綴り字、以下同様) → [jə] の「表層・音声的」2 音節語 (= 末尾第 2 音節に強勢のある語) で *stød* を取る語は約 60 個、一方、<-je/-ie> が常に [jə] となり、*stød* を取らない基底および表層 2 音節語が約 60 語あるとする。つまり、「表層」2 音節語で [jə] に終わる語は *stød* をとる語ととらない語がほぼ同数となる。上記の Grønnum の語例は発音辞典 MH (「参考文献」参照) では [i] 形も認めている場合もあるが、本論では Grønnum の解釈に従う。(なお、以下の記述の音声記号は DnMs を用いる。)

この場合、前者の型を「基底」3 音節語の「例外」として扱うべきなのか疑問である。というのは、Grønnum は、<i> が [j] となる語は <-ie> → [jə] (<-sie> → [ʃə]) の語、つまり [ə] に終わる語しか取り上げていないが、このほかに、<-ien>, <-ia>, <-io>, <-ion>, <-ium> (<-eum>), <-ius> などの <i> が [j] (および <-si> → [ʃ]) となる語を加えると、「基底」3 音節語で *stød* を取る「表層」2 音節語は非常に多くなる。たとえば **Skandinavien** [sgandi'ná:vjen], **begonia** [be'go:nja], **radio** ['ræ:djo], **stadion** ['sdá:djøn], **stadium** ['sdu:djøm], **petroleum** [pe'tro:ljam], **radius** ['ræ:djus], **Asien** [ʰá:ʃøn], **magnesia** [mæw'ne:ʃa], **gymnasium** [gym'ná:ʃãm], **celsius** [ʰsæl'ʃus].

なお、**familie** [fa'mil'jə] は現今 *stød* つきの 2 音節形しか存在しない。同様に **komedie** [ko'með'jə, ko'me:ðjə], **tragedie** [træ'geð'jə, træ'ge:ðjə] でも、強強勢母音が長母音であっても短母音であっても、*stød* つきの 2 音節形が普通である。

Grønnum (2005: 226) は、/ə/ に終わる「基底」2 音節語で *stød* をとるのは **ordre** と **etage** の 2 語であると言い、**etage** の *stød* は義務的ではないと言う。

しかし、基底 2 音節語の **etage** は辞書 MH, SD, ND, DO (「参考文献」参照) 全てで *stød* つきで表記されている。この語はすでに Hansen (1943: 68) でも *stød* つきの表記がなされているが、興味深いことに Hansen はこの語を 3 音節語の “eta'sia” (Hansen の表記) から発するものと考え、これは **asie** が [a'sia] および [a'ʃə] (Hansen の表記) と発音されるのと同様の現象であるとする。Hansen (1943: 105)

でも同じことが述べられているが、同所ではさらに **bol'sje** も同様に3音節語の発音変異形であると述べている。しかし **bolsje** は現今では2音節形 ['bɔl'ʃə] のみで、Heger (*op. cit.*: 80) も2音節語であると述べている。したがって、この語が「基底」3音節語である証拠はないように思われる。奇妙なことに、この語は Grønnum では取り上げられていない。

いずれにせよ、**ordre, bolsje, etage** は現今 stød つきの2音節形しか存在しない。

2.2. Grønnum のグループ VII の語

§1.3 で示したように、Grønnum によれば、グループ VII の /əl ən ər/ に終わる語の stød 生起はかなり不規則・変則的である。国籍などを表す語彙を除いた、これらの644語のうち、395語は stød をもち、249語は stød をもたない。これらの語彙は母語話者がとくに派生語とは思わないものである。

	+stød	÷stød (÷ = マイナス)
/əl/ (173 語)	86%	14%
/ər/ (338 語)	63%	37%
/ən/ (134 語)	26%	74%

末尾第2音節に強強勢をもつ語は全般に stød なしであるので、グループ VII の stød をもつ395語は語彙 leksikon のなかで「有標化」されなくてはならないと言う (2005: 227)。

Andersen (1954: 321) は -ən, -əl, -ər, (-əð) の語は一般に stød をもつと述べ、Hansen (1943: 32) でも Andersen と同様に、**-el, -en, -er** の単純語 simple ord (= 単形態語) は一般に stød をもつと述べられている。つまり、Andersen も Hansen も stød をもつ語の方が多いとする (ただし、-əð の語は stød をとらない)。これらの記述は、単形態形に関する限りは正しいと、Heger (*op. cit.*: 88) は言う。Hansen (1943: 32) はこれらの語彙のうち stød をもつのは本来の1音節語であると説明するが、現在のデンマーク語使用者にとって通時的な語源などは何ら意味をもたないと思われる。Grønnum (2005: 227) も、§1.3 で触れたように、とくに /əl/ の語に関して、共時的に1音節形とすることが可能であると主張しているが、説得力に欠ける。Grønnum によれば、たとえば **æsel, vammel, orden, våben, mønster, kammer** のような語は /əC/ の屈折語尾を付加した **æsl-er, vaml-er, ordn-er, våbn-et, mønstr-et, kam-re** は2音節形であり、このことは語幹 (= 基本形) が基底では1音節であることを示唆する。語源的に1音節語か2音節語かを見てみると、上例のうち、**våben** は1音節語であるが、その他の **æsel, vammel, orden, mønster, kammer** は2音節語であるので、Grønnum の1音節語という解釈は共時的な観点からということになる。しかしながら、**handel** ['han'əl] – **handel-en** ['han'løn] – **hand(e)l-er**

[^han'ɫɔ] のように、通時的にも共時的にも 2 音節または 1 音節の語もある。一方、stød をもたない **gammel – gaml-e, vabel – vabl-er, åben – åbn-e** のように屈折形で「1 音節」に見える語もある。同様に stød なしの **engel – eng(e)l-en – engl-e (/engl-er), djævel – djæv(e)l-en – djævl-e, himmel – him(me)l-en – himl-e, hammer – hammer-en – ham(me)r-e, – hils(e)ner, hilsen – hils(e)nen**。

それゆえ、**æsel, vammel, orden, våben, mønster, kammer** のような語の語幹が基底では 1 音節であるとするのは妥当とは思われない。

末尾第 2 音節に強強勢をもつ語は全般に stød なしであるので、グループ VII の stød をもつ 395 語は語彙 *leksikon* のなかで有標化・語彙化されなくてはならないと Grønnum は言うが、これは音韻論における解釈の話で、母語話者の言語使用には何の役にもたないであろう。

なお、§1.3 末尾で述べたように、[-ɔð] に終わる語は stød をとらない。これらは語源的にはすべて本来の 2 音節語であるが、この事実も共時的には何の意味ももたない。

名詞：**fælleð** [^hfæɫɔð], **herred** [^hháɫɔð, ^hhá:ɔð], **hoved** [^hho:ɔð], **levned** [^hlæwnɔð], **høved** [^hhöwɔð], **lærred** [^hláɫɔð, ^hlá:ɔð], **marked** [^hmɑ:gɔð], **måned** [^hmå:nɔð], **vorned**¹ [^hvå:nɔð] <農奴>, **ævred** [^hæwrɔð, ^hæw:ɔð], **ørred** [^höɫɔð, ^hö:ɔð] *etc.*;

形容詞：**fremmed** [^hfrämɔð], **vorned**² [^hvå:nɔð] <農奴の身分の> *etc.*

Heger (*op. cit.*) は stød 生起に関して、豊富な数的なデータを提供し、諸家の stød に関する生起条件の適・不適を詳述しており、β 語、すなわち末尾第 2 音節に強強勢をもつ語、の 65% は stød なしであると述べる (Heger (*op. cit.*: 89)). ただしこの数字は複形態語を含めての数字である。複形態語は様々な形態音韻の条件が加わり、stød をとる語形が増加する。(Heger の調査結果は RO (= *Retskrivningsordbog*, 1976), NDO (= *Nudansk ordbog*), DANWORD (SAML 4, 1977) などの資料に基づくとのことであるが、NDO の版については明示されていない。)

2.3. グループ VII の語で強強勢音節の前に弱強勢音節をもつ語

Grønnum (2005: 227) は、/əl ən ər/ に終わる 644 語のうちの 94 語は、強強勢音節の前に弱強勢音節 (*prætonisk(e) stavelse(r)*) をもつ語、たとえば **ranunkel, tuberkel, salamander, beleven** で、このほか英語からの少数の新借用語があるが、これらは使用頻度が高く、普及している、たとえば **computer, speeder** と述べている。(注意：**speeder** には強強勢音節の前に弱強勢音節がない、すなわち 2 音節語である)。Grønnum は音声表記を示していないが、これらは (DnMs) **ranunkel** [^hrɑ'nɑŋ'gəl], **tuberkel** [^htu'bɑɾ'gəl] (若年層では [^htu'bɑɾ'gəl] も) **salamander** [^hsala'man'dɔ], **beleven** [^hbe'le:v/wən], **computer** [^hkåm'pjʊ:ɔ], **speeder** [^h'sbi:ɔ]。

これらの語の stød の有無について、どちらの方が優勢かは述べられていない。上例中の **tuberkel** [tu'bɑ:rgəl] は若年層以外では [ɹ] に後続する子音が無声子音 ([g]) のため、stød が起こらないのかもしれないと思われるが、英語からの近代・現代の借用語は通常 stød をとらない傾向にある。それゆえ、**computer**, **speeder** には stød がない。このほかでも、英語からの /-ər/ の語 **choker**, **jumper**, **lighter**, **keeper**, **poker** などは stød をもたない。(これらの語は英語で単形態か複形態かは別として、デンマーク語にはこのままの形で借用された。)

筆者が *Baglænsordbog* (1988) で調査した限りでは、英語以外からの借用語では次のような傾向にあると思われる。

/əl/ に終わる語：**eksempel** [æg'sæm'bəl, əg-], **konstabel** [køn'sdɑ:bəl, kån-, kon-], **parabel** [pɑ'rɑ:bəl] *etc.* このほか、単形態形とは言えないかもしれないが、フランス語からの **-bel** の形容詞が多数ある、たとえば **horribel** [hɑ'ri:bəl, ho-], **kapabel** [ka'pɑ:bəl], **risikabel** [risi'kɑ:bəl]。Stød つきが優勢と思われる。

/ər/ に終わる語：**cylinger** [sy'len'ɔ, -len'dɔ], **hypokonder** [hypo'køn'dɔ, hybo-], **kalender** [ka'læn'ɔ], **kandelaber** [kandə'lɑ'bɔ], **makaber** [ma'kɑ'bɔ], **rabalder** [rɑ'bal'ɔ], **rabarber** [rɑ'ba'bɔ] *etc.* さらに、**december** [de'sæm'bɔ, dɔ-], **november** [no'væm'bɔ], **september** [seb'tæm'bɔ] などに加えることができよう。また、**pauver** [po'vɔ, 'po:wɔ], **proper** ['pro:bɔ] などの2音節語もある。Stød つきが優勢と思われる。

/ən/ に終わる語：stød あり：**beleven** [be'le:v/wən], **skabilken** [sga'bil'gən]; stød なし：**cyklamen** [sy'klɑ:mən], **eksamen** [æg'sɑ:mən], **tentamen** [tæn'tɑ:mən]。

強強勢音節の前に弱強勢音節をもつ語形でも2音節形の語と同じ傾向が見られるように思われる (§§1.3, 2.2 参照)。

2.4. グループ VIII の語

§1.4 で示した Grønnum のグループ VIII は弱強勢音節中に完全母音をもつ2音節β語で、原則通り stød なしとのことである (2005: 227, 228)。以下に例語を加える。

完全母音で終わる語：

cello ['fælo], **drama** ['drɑ:ma], **firma** ['fi:ma], **giro** ['fi:ro], **gummi** ['gɑmi], **judo** ['ju:do], **kilo** ['kilo], **komma** ['kɔma], **mango** ['mæŋgo], **manko** ['mæŋko, 'mæŋgo], **polka** ['pɔlka], **prosa** ['pro:sa], **rondo** ['rɔndo], **saga** ['sɑ:ga], **saldo** ['saldo], **skema** ['sge:ma], **soda** ['so:da], **sofa** ['so:fa], **tabu** ['tɑ:bu], **tango** ['tæŋgo], **tema** ['te:ma], **tempo** ['tæmpo, 'tæmbo], **torso** ['tɑ:so], **trio** ['tri:ɔ], **villa** ['vila], **zebra** ['se:brɑ], **zebu** ['se:bu] *etc.*;

完全母音+子音で終わる語：

bambus ['bæmbus], **basis** ['bɑ:sis], **bonus** ['bo:nus], **facit** ['fɑ:sid], **globus** ['glo:bus],

kanon ['ká:nən], **kaos** ['ká:əs], **kasus** ['ká:sus], **kokos** ['ko:kås, 'ko:gos, 'ko:gus], **kolon** ['ko:lən], **lotus** ['lo:tus], **opus** ['o:pus], **satan** ['sá:tan], **tyfus** ['ty:fus] *etc.*;

多数の **-or** の語: **humor** ['hu:mə, 'hu:må], **motor** ['mo:tə, 'mo:tå] *etc.*

Grønnum は **juni** ['ju:ni], **juli** ['ju:li] は例外的に *stød* をとるとのことであるが、筆者が調査したところでは、次の語も *stød* をとる: **mahogni** [mā'ho:ni], **cognac/kognjak** ['kən'jæg].

2.5. 強強勢音節の前に弱強勢音節をもつ語

§2.3 で述べた /-əl, -ər, -ən/ の語とは異なり、末尾第 2 音節の強強勢音節の前に弱強勢音節をもつ β 語は原則として *stød* をとらない。

/-ə/ で終わる語:

akeleje [agə'laiə], **annonce** [a'nəŋsə], **bagage** [ba'gá:fə], **balance** [ba'ləŋsə],
barrikade [bær'ká:ðə, bæi-], **chokolade** [ʃoko'lá:ðə, ʃogo-], **garage** [gá'ra:fə],
hypotese [hypo'te:sə, hybo-], **kaprice** [ka'pri:sə], **krokodille** [(_q)kroko'dilə, (_q)krogo-],
kusine [ku'si:nə], **margarine** [(_q)mā(:)gá'ri:nə, māgə-, (_q)mā(:)ga-], **maskine** [ma'sgi:nə],
massage [ma'sá:fə], **massøse** [ma'sø:sə], **metode** [me'to:ðə], **mimose** [mi'mo:sə],
niece [ni'æ:sə], **passage** [pa'sá:fə], **propagande** [propa'ganda, proba-],
rotunde [ro'tåndə], **satire** [sa'ti:ə] *etc.*;

完全母音で終わる語:

alkali [al'ká:li], **gorila** [go'rila], **flamingo** [fla'menɡo], **influenza** [enflu'ænsa],
kollega [ko'le:ga], **korona** [ko'ro:na], **panorama** [pano'ræ:ma] *etc.*

このように、*stød* なしの語が当然ながら優勢である。

2.6. 末尾第 2 音節に強強勢をもつ女性名

Heger (*op. cit.*: 98) が指摘するように、女性名などで末尾第 2 音節に *stød* をもつものもある。以下、女性名を見てみる(女性名の資料は、新谷ほか (2009) より)。

-ə に終わる 2 音節女性名は、普通の(=固有名詞以外の)語彙の場合と同様に、当然ながら、*stød* をとらない:

強強勢音節母音=長母音: **Aase/Åse** ['á:sə], **Ane** ['á:nə], **Gine** ['gi:nə], **Gret(h)e** ['græ:də],
Gyde ['gy:ðə], **Hebe** ['he:bə], **Jane** ['já:nə], **Lane** ['lá:nə], **Lene** ['le:nə], **Line** ['li:nə],
Lise ['li:sə], **Lone** ['lo:nə], **Marthe** ['má:tə], **Mine** ['mi:nə], **Rise** ['ri:sə], **Rose** ['ro:sə],
Signe ['si:nə], **Sine** ['si:nə], **Stine** ['sdi:nə], **Tine** ['ti:nə], **Tove** ['to:və], **Trine** ['tri:nə]
(年配の世代 ['tri:nə] も), **Vibe** ['vi:bə], **Thyre** ['ty:rə];

強強勢音節母音=短母音: **Anne** ['anə], **Bente** ['bændə], **Berthe** ['bá:ðə] **Birt(h)e** ['bi:ðə],
Else ['ælsə], **Fenja** ['fænja], **Hanne** ['hanə], **Heide** ['hæi:ðə], **Helle** ['hælə] (*cf.*

Helen ['he:lən], **Helena** [he'le:nə], **Hilde** ['hildə], **Ilse** ['ilsə], **Inge** ['eŋə], **Janne** ['janə], **Lønne** ['lønə], **Majse** ['mɑ:sə], **Mejse** ['mɑ:sə], **Malle** ['malə], **Mille** ['milə], **Nille** ['nelə], **Nynne** ['nønə], **Sanne** ['sanə], **Sille** ['silə], **Tilde** ['tildə].

NDO (1995) によれば、これらの女性名のうち、**Aase/Åse**, **Signe**, **Tove**, **Inge**, **Else**, **Fenja** など古くからある名前もあるが、ほとんどは長い女性名の略形または愛称、傍形、あるいは男性名からの派生形などである、たとえば：**Ane** (-ane, たとえば女性名 **Kristiane** [kræ'sdjɑ:nə] の略形), **Gine** (**Regine** [ræ'gi:nə] の略形), **Gret(h)e** (**Margrete** [mɑ'græ:də] の略形), **Jane** (**Juliane** [juli'ɑ:nə] の略形), **Lise** (ドイツ語から; **Elisabeth** [e'li:sə,bæd] の縮約形), **Sine** (**Hansine** [han'si:nə] の略形), **Trine** (**Katrine** [ka'tri:nə] の愛称); **Anne** (**Anna** の傍形), **Bente** (**Benedikte** [bæ'nə'digdə] の短縮形), **Hanne** (**Johanne** [jo'han'ə] の略形), **Helle** (男子名 **Helge** [jæljə] に対応の女性名 **Helga** ['hælgə] から), **Mille** (**Emilie** [e'mi:ljə] の愛称), **Nille** ['nelə] (**Pernille** [pɑ'nelə] の略形), **Sanne** (**Susanne/Suzanne** [su'sanə] の略形)。

ただし、次の3語には stød がある：

Mie ['mi:ə] (cf. **Miehe** ['mi:ə] 姓 (サーカス一家)),
Rie ['ri:ə] (cf. **Marie** [mɑ'ri:ə] (cf. **Maria** [mɑ'ri:a])),
Nete ['ne:də] (cf. **Agnet (h)e** [ɑw'ne:də]).

上記3語は NDO (*op. cit.*) には記載されていないが、**Rie** は **Marie** [mɑ'ri:ə] の、**Nete** は **Agnet(h)e** [ɑw'ne:də] の略形または愛称形と思われる。**Mie** はどのような名なのか不明である。**Rie** と **Nete** は stød をもつ女子名の略形であるが、本節冒頭に示した女性名のうち、**Gret(h)e**, **Stine**, **Trine**; **Hanne**, **Mille** は各々 stød をもつ **Margrete** [mɑ'græ:də], **Kristine** [kri'sdi:nə], **Katrine** [ka'tri:nə]; **Johanne** [jo'han'ə], **Emilie** [e'mi:ljə] の略形、愛称であるが、これらの略形を含め、2音節形の女性名は全て stød なしであるので、上記の3語 **Mie**, **Rie**, **Nete** の stød は例外と言えよう。なお、弱強勢完全母音に終わる2音節語は stød をもたない (§1.4 参照)：

Ea ['e:a], **Lea** ['le:a] (cf. **Leo** ['le:o] 男性名), **Mia** ['mi:a], **Pia** ['pi:a], **Tea** ['te:a],
Io ['i:o], **Aino** [ɑino].

このことから見ても、**Mie**, **Rie**, **Nete** の stød は例外と言えよう。

-əl, -ən, -ər など “-ə+子音” に終わる女性名詞 (§1.3 参照) の2音節形では stød なしと stød ありの両方が見られる：

stød なし：**Ellen** ['ælnən]; **Karen** ['kɑ:ən], **Maren** ['mɑ:ən]; **Inger** ['eŋə]; -əs: **Agnes** ['awnəs]. (NDO (*op. cit.*) によれば、**Ellen**, **Karen**, **Maren** はデ(ンマーク)語の場合、各々 **Eline**, **Katrine**, **Marine** より発展; **Inger** は古デ語 **Ingigørth**; **Agnes** はラテン語 **Agnes** (女性聖人) より.)

Stød あり：**Edel** ['e:ðəl], **Rachel** ['rɑ:kəl]; **Carmen** ['kɑ:mən], **Helen** ['he:lən] (cf. **Helle**

[ˈhælə], **Ellen** [ˈælən], **Iben** [ˈiːbən], **Maiken** [ˈmɑjˈgən]; **Gunver** [ˈgʌnˈvɔ] (cf. **Gunvor** [ˈgʌnˈvɔ]). (NDO (*op. cit.*) によれば, **Edel** は古デ語 **Ethla**, ドイツ語借用語 **Adelheid** の略形, **Rachel** はヘブライ名, **Helen** は英語 **Helen** より, **Gunver** は **Gunvor** (= 古ノルド語 **Gunvvör** より) **Carmen**, **Iben**, **Maiken** は NDO に記載されていない.)

末尾第 2 音節の強強勢音節の前に弱強勢音節をもつ β 語は, §2.5 で示したように, 一般に stød をもたない. 固有名詞の場合, Heger (*op. cit.*: 98) によれば, 男性名で stød をもつのは **Johannes** [joˈhanˈəs] (-s に終わる) だけであるが, 女性名は stød をもつものがかかなりあるが, stød のない語の方が当然多い. 以下の女性名 (少数の派生名を含む) は, 新谷ほか (2009) に記載されているものである.

Stød なし: 強強勢音節母音 = 長母音:

Abelone [abəˈloːnə], **Adele** [aˈdeːlə], **Alexandrine** [alægsanˈdriːnə], **Amine** [aˈmiːnə], **Anine** [aˈniːnə], **Annalise** [anaˈliːsə], **Annegrethe** [anəˈgræːdə], **Annelise** [anəˈliːsə], **Athene** [aˈteːnə], **Boline** [boˈliːnə], **Columbine** [kolāmˈbiːnə], **Diane** [diˈāːnə] (cf. **Diana** [diˈāːna]), **Egone** [eˈgoːnə], **Eline** [eˈliːnə], **Elise** [eˈliːsə], **Engelise** [eŋəˈliːsə], **Ernestine** [æˌnəˈsdiːnə], **Gertrude** [gərˈtruːðə], **Hansi(g)ne** [hanˈsiːnə], **Helene** [heˈleːnə], **Irene** [iˈræːnə], **Jakobe** [jaˈkoːbə], **Jensine** [jænˈsiːnə], **Josefine** [josəˈfiːnə], **Juliane** [juliˈāːnə], **Jørgine** [jörˈgiːnə], **Karoline**, **Ca-** [kəroˈliːnə], **Kristiane** [kræˈsdjāːnə], **Leonore** [ˌleoˈnoːɔ], **Louise** [luˈiːsə] (cf. **Louisa** [luˈiːsa]), **Madsine** [maˈsiːnə], **Magdalene** [mawdaˈleːnə] (cf. **Magdalena** [mawdaˈleːna]), **Magdalone** [mawdaˈloːnə], **Malene** [maˈleːnə], **Mariane** [maˈriːāːnə], **Marlene** [maˈleːnə], **Martine** [maˈtiːnə], **Nielsine** [nelˈsiːnə], **Nikoline** [nekoˈliːnə], **Olefine** [oləˈfiːnə], **Oline** [oˈliːnə], **Pauline** [pawˈliːnə], **Pouline** [powˈliːnə], **Rasmine** [ræsˈmiːnə], **Regine** [ræˈgiːnə], **Selene** [seˈleːnə], **Simone** [siˈmoːnə], **Sørine** [søˈriːnə], **Terese** [teˈræːsə], **Thomasine** [tomaˈsiːnə], **Vilhelmine**, **Wilhelmine** [ˌvɪlh ælˈmiːnə];

強強勢音節母音 = 短母音:

Adelaide [adəˈlɑːdə] **Alvilde** [alˈvildə], **Aren(d)se** [ɑˈrænsə], **Botilde** [boˈtildə], **Constance** [kənˈsdɑŋsə], **Hortense** [hɑˈtænsə] (cf. **Hortensia** [hɑˈtænˈʃa]), **Isolde** [iˈsɔldə], **Marianne** [maˈriːanə], **Mathilde** [maˈtildə], **Pernille** [pærˈnelə], **Sibylle** [siˈbylə], **Susanne/Suzanne** [suˈsanə], **Yvonne** [yˈvɔnə]; (上例のうち, **Pernille** は stød をとると Heger (*op. cit.*; 98) は述べている. SD によれば stød なしの [pærˈnelə] であるが, とくに「年配」の世代では [pa(ɪ)nelˈə] が見られるとする.)

Stød あり:

強強勢音節母音 = 長母音:

Agathe [aˈgäːdə], **Agnet(h)e** [ɑwˈneːdə], **Angelika/-ca** [ɑŋˈgeːlika], **Beate** [beˈäːdə], **Katrine** [kaˈtriːnə] (cf. **Katrine** の愛称の **Trine** [ˈtriːnə] (stød なし), 年配の世代で

[*'tri:nə*] も), **Kirstine** [*ki:'sdi:nə*], **Kristine** [*kri:'sdi:nə*] (cf. **Kristina** [*kri:'sdi:na*] (*stød* なし)), **Lucie** [*lu:'si:ə*] (cf. **Lucia** [*lu:'si:a*]), **Margrete** [*mɑ'græ:də*], **Marie** [*mɑ'ri:ə*] (cf. **Maria** [*mɑ'ri:a*]), **Merete** [*me'ræ:də*], **Petrine** [*pe'tri:nə*], **Sofie** [*so'fi:ə*] (cf. **Sofia** [*so'fi:a*]), **Annesofie** [*anəsə'fi:ə*].

強強勢音節母音＝短母音：

Johanne: [*jo'han'ə*] (cf. 男性名 **Johannes** [*jo'han'əs*])

これらの女性名では *stød* なしの語が 65 個, *stød* ありの語が (明らかな合成形 **Annesofie** [*anəsə'fi:ə*] も加えて) 16 個で, *stød* なしの語の方が圧倒的に多い. このことは当然ながら末尾第2音節に強勢のある語の一般的傾向と同じであることを示していると言えよう.

以上の傾向から見て, 2音節で *stød* つきの **Mie** [*'mi:ə*], **Rie** [*'ri:ə*], **Nete** [*'ne:də*] が例外中の例外であることが分かる. デンマーク語母語話者はこれらの女性名をごく自然に *stød* つきと感知するのであろうか.

3. まとめ

デンマーク語母語話者にとって, §1.2 で述べた **specie, medie, studie, familie, konkyllie, arie, ferie, serie, glorie, historie, furie, asie** などの基底3音節語と基底2音節語の意識があるのか.

§1.3 の **-el, -er, -en** の語の±*stød* の語をどのように使い分けているのだろうか. また, 女子名の一部に見られる *stød* をどのように判断しているのだろうか.

このように, 外国人にとっては克服しがたい±*stød* の語の分布状況であるが, デンマーク語話者にとっては困難なことではないのかもしれない. なぜなら, たとえば日本語の語アクセントの習得のための規則はまったくなく, デンマーク語の *stød* の規則よりも絶望的である. たとえば「ハシは (箸は), カキは (牡蠣は) —ハシは (橋は), カキは (垣は) —ハシは (端は), カキは (柿は)」などのアクセントの相違は意味的・形態的・音韻的に説明することは不可能である. それでも標準語話者は習得しているのである. 不思議なことである.

Stødet i ordene med tryk på næstsidste stavelse

Hideo Mase

Resumé

Monomorfemiske ord med tryk på næstsidste stavelse har som regel ikke stød. Men tingene er ikke så simple. Grønnum siger at ord som **specie**, **medie**, **familie**, **ferie** “overfladisk” er tostavelles- men “underliggende” trestavellesord, mens ordene som **smedje**, **balje**, **linje** både “underliggende” og “overfladisk” er tostavellesord (Grønnum (2005: 226)) (se §1.2). M.h.t. ordene med **-el**, **-er**, **-en** er stødforkomsten er temmelig uregelmæssig. Af 644 ord med **-el**, **-er**, **-en** er 395 ord stødte og 249 ord stødløse (Grønnum (2005: 226)) (se §§1.3 & 2.2). Flertallet har altså stød. Ordene med prætonisk/optakt stavelse er almindeligvis stødløse (se §2.5), men der findes ikke så få stødte ord (se §2.3).

Disse tendenser findes også kvindenavne (se §2.6). Fleretallet af kvindenavnene med eller uden prætonisk/optakt stavelse er, som forventet, stødløse. (Materialet er baseret på Shintani *et al.* (2009)). Tostavelles kvindenavnene som ender med *ə* er stødløse undtagen **Mie**, **Rie** og **Nete**. **Rie** og **Nete** er sandsynligvis forkortede former af **Marie** og **Agnete** som har stød. Men udstødte **Gret(h)e**, **Stine**, **Trine**, **Hanne** og **Mille** er forkortede former af henholdsvis ‘stødte’ **Margrete**, **Kristine**, **Katrine**, **Johanne**, **Emilie**. Tostavelles kvindenavnene som ender med fuldvokal er også stødløse: **Ea**, **Lea**, **Mia**, **Pia**, **Tea**, **Io**, **Aino**. Set fra disse tendenser er stødet i **Mie**, **Rie** og **Nete** meget markante, synes jeg. Hvordan opfatter indfødte dansk-talende stødet i disse tre ord – selvfølgeligt eller ej? Og er det nemt for dem at skelne andre almindelige stødte og udstødte ord især med tryk på næstesidste stavelse? Begrebet “underliggende vs. overfladisk” betyder ikke noget for almindelige dansk-talende, og “etymologisk” en- eller tostavelles betyder heller ikke noget for dem, tror jeg.

Det er meget vanskeligt eller næsten håbløst for udlændinge at lære fordelingen af stødte og udstødte ord, især ordene med tryk på næstesidste stavelse, synes jeg. Alligevel er den danske stød-fordeling ikke så kaotisk som den japanske ordaccent, hvis fordeling ikke er baseret på nogen semantisk, morfemisk, fonologisk regel. Men forbavsende nok bruger japansktalende accenterne korrekt.

参 考 文 献

- Andersen, Poul. 1954. *Dansk fonetik. Nordisk Lærebog for Talepædagoger*, København: Rosenkilde og Bagger Forlag, 308-353.
- Becker-Christensen, Christian. 1988. *Bogstav og Lyd. Dansk retskrivning og rigsmålsudtale*. Bind. 1. København: Gyldendal. (本文中で B-C と略す)
- Brink, Lars & Jørgen Lund. 1974. *Udtale orskelle i Danmark. Aldersbestemte — geografiske — sociale*. København: Gjellerup.
- . 1975. *Dansk rigsmål. Lydudviklingen siden 1840 med særligt henblik på sociolekterne i København*. København: Gyldendal. (本文中では DR と略す)
- Grønnum, Nina. 2005. *Fonetik og Fonologi. Almen og Dansk*. Tredje udgave. Akademisk Forlag.
- Grønnum, Nina. 2007. *Rødgrød med Fløde En lille bog om dansk fonetik*. Akademisk Forlag.
- Grønnum, Nina & Hans Basbøll. 2009. “Nye stød i dansk”. Farø, Ken *et al.* (red.): *Sprogvidenskab i glimt*. Syddansk Universitetsforlag. Kapitel 1: Fonetik og fonologi, 26-32. Odense.
- Hansen, Aage. 1943. *Stødet i dansk. Det Kgl. danske videnskabernes selskab, Historisk-filologiske meddelelser*, Bind XXIX, Nr. 5. København: Munksgaard.
- Hansen, Aage. 1956. *Udtalen i moderne dansk*. København: Gyldendal.
- Heger, Steffen. 1980. “Stødregler for dansk”, *Danske Studier*, 78-99.
- 新谷俊裕・大辺理恵・間瀬英夫編. 2009. 『デンマーク語固有名詞カナ表記小辞典』. 大阪大学 世界言語研究センター デンマーク語・スウェーデン語研究室. (Shintani, Toshihiro, Rie Obe & Hideo Mase (red.). *En liste over 5800 danske proprier med japanske katakana-gengivelser*. Osaka University Research Institute for World Languages The Division of Danish and Swedish. Osaka 2009.)
- 間瀬英夫. 2005. 『デンマーク語学ハンドブック —デンマーク語文法術語集— —デンマーク語音表記のための音声記号—』. 大阪外国語大学.

辞書類：

- DO: Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. 2003-2005. *Den Danske Ordbog*. Bind 1 – Bind 6. København: Gyldendal.
- ND: Becker-Christensen *et al.* (red.). 2000. *Politikens Nudansk Ordbog med etymologi*. 1. udg. 2. oplag. København: Politikens Forlag.
- MH: Molbæk Hansen, Peter. 1990. *Udtaleordbog*. København: Gyldendal.

- NDO: Becker-Cristensen, Christian & Peter Widell. 1995. *Politikens Nudansk Ordbog & Sprogbrugsleksikon*. 15. udg. København: Politikens Forlag.
- SD: Brink, Lars *et al.* 1991. *Den Store Danske Udtaleordbog*. København: Munksgaard.
- Dansk Sprognævn. 1988. *Baglænsordbog*. København: Gyldendal.

DnMs, MH, Dania, IPA の音声記号対応表

DnMs	MH	Dania	IPA	DnMs	MH	Dania	IPA
i:	i:	i̇	i:	p	p	p	b ^h
i	i	i	i	t	t	t	d ^h
e:	e:	ė	e ₁ :	k	k	k	g ^h
e	e	e	e ₁	b	b	b	b ₀
æ:	ε:	æ̇	e:	d	d	d	d ₀
æ	ε	æ	e	g	g	g	g
râ:	ræ:	râ̇	ka ₁ :	f	f	f	f
rä	ræ	rä̇	ka ₁	s	s	s	s
â:ɔ	æ:Λ	â̇ɔ	a ₁ :ɔ ^τ	ʃ	ʃ	ʃ	ʃ
â.ɪ	æR	â̇.ɪ	a ₁ p ₀	h	h	h	h
â:	a:	â̇	ε:	v	v	v	v
a	a	a	ε ^τ	m	m	m	m
α:	α:	α̇	α:	n	n	n	n
α	α	α	α	ŋ	ŋ	ŋ/η	ŋ
y:	y:	ẏ	y:	l	l	l	l
y	y	y	y	ð	ð	ð	ð
ø:	ø:	ø̇	ø ₁ :	j	j	j	i̇
ø	ø	ø	ø ₁	j/ɹ	j	i	i̇
ö:	ö:	ö̇	ø:	w	w	w	u̇
ö	ö	ö	ø	r	r	r	ʁ
ÿ:	ÿ:	ÿ̇	œ ^τ :	ɹ	R	ɹ	ʁ
ÿ	ÿ	ÿ	œ ^τ	ɹ̃	ɹ̃	ɹ̃	ɹ̃
u:	u:	u̇	u:	x	χ	q	x
u	u	u	u	þ	θ	þ	θ
o:	o:	ȯ	o ₁ :	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
o	o	o	o ₁	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇
â:	â:	â̇	o:	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇
â	â	â̇	o	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇
ɔ	Λ	ɔ̇	ɔ ^τ	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇
å:	ɔ:	å̇	D:	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇
å	ɔ	å̇	D	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇
ə	ə	ə̇	ə	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇	ɿ̇/ɹ̃

* DnMs = Dania を一部変更した記号（間瀬 (2005) 参照）.

* MH = Peter Molbæk Hansen. *Udtaleordbog*. 1990.

* Dania = デンマーク語のみに用いられる記号.

* IPA = 国際音声記号(精密表記). MH: 8f. による.

注意：長母音を表す <rȧ> = MH [ræ:] (DnMs [râ:]) は MH **græde** にのみ適用される. この他の場合には, 長母音を表す <rȧ> は MH [re:] (DnMs [ræ:]).